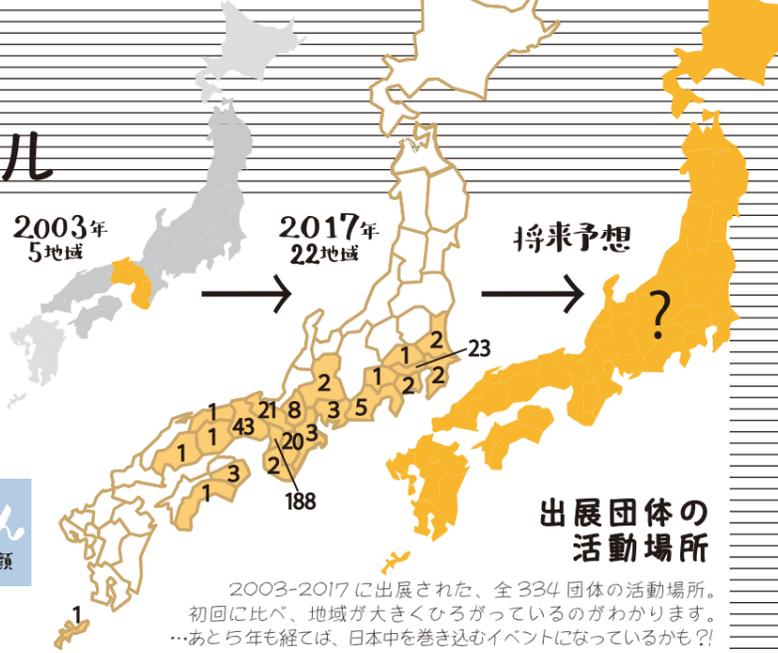
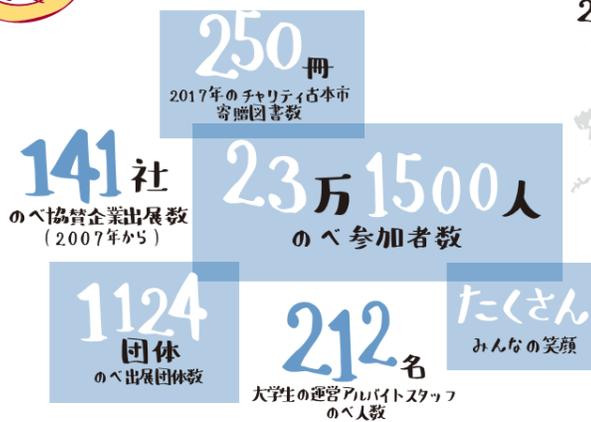




数字で見る フェスティバル



大阪自然史フェスティバルの今までとこれから

2003年の初開催から15年。大阪自然史フェスティバルは、出展団体のみならず参加者、協賛・協力企業やサポーターの方々とともに成長しつづけています。大阪周辺で活動する自然史関連団体や自然史博物館友の会会員が交流するためのイベントであったフェスティバルは、いつしか、その地域を飛び越え、この日のために日本全国でたくさんの人たちが企画を練り、ともに学び、ともに楽しみ、ともに情報交換をするためのフェスティバルへと変わりました。

これからのフェスティバルに向けて

当初の目的である「博物館コミュニティのネットワークの強化」は大切なテーマにしなが、私たちは以下のことを柱にしなが、これからも大阪自然史フェスティバルの開催をつづけていきます。

- ・「つながる」 出展団体がつながる場を提供。地域で活動している団体どうしのつながりや、大学生と企業のつながりなど、相互に学び合い、新しい取り組みへと発展するつながりを応援します。
- ・「みつける」 初めてフェスティバルに遊びに来た人も、魅力を感じる活動や、知的好奇心をくすぐられる情報を見つけれられる場を提供し続けます。
- ・「そだつ」 学生時代にフェスティバルの運営スタッフとして参加したり、出展団体として活動発表したことをきっかけに、地域での活動や自然環境系の仕事や研究者になるなど、若手がこれらのフィールドで活躍していくための入口になりたいと思っています。
- ・「気づく」 活動発表の方法にもたくさんの工夫がみられます。フェスティバルへの参加をきっかけに、自然を学ぶ楽しさを伝える新しい形を学びあひましよう。
- ・「つづく」 今年で15年を迎えた「自然派市民の文化祭」を継続していくためにも、みなさんと一緒に作り上げていくためにも、たくさんの方の応援を必要としています。ぜひ、みなさま、大阪自然史フェスティバル開催と継続に向けたご支援をこれからも引きつづきよろしくお願いたします。



大阪自然史フェスティバルへのクレジットカードのご寄付は、寄付サイト「シンカブル Syncable」の決済システムを利用しています。また、お譲りいただいた古本の売上を開催資金に充てる「チャリティ古本市」へのご参加でもフェスティバルを応援いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。



まもなく400名の大台に乗りそうな我が標本サークル「なほホネホネ団」がデビューしたのも、2004年の自然史フェスでした。チラシを見ると、フェスの歴史は私の博物館での歴史なんだなと実感。(にしざわ)

はくラボ通信 Vol.2
認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター
2019年11月発行

www.facebook.com/naturalhistory.center

@omnh_museumshop

このパンフレットは環境に配慮したベジタブルオイルインクを使用しています。

はくラボ 通信 Vol.2

～何やってるの？ 活動しようかい～

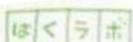


累計来場者数、
23万1500人！

特集

大阪自然史フェスティバルの 15年間

大阪周辺の自然に関わるさまざまな団体があつまり、自然のおもしろさ、活動の楽しさを伝える「自然派市民の文化祭」として、2003年に初開催。近年、出展団体は100団体を超え、来場者数は延べ1万人～2万人を維持しています。はくラボは事務局として運営のすべてに関わり、地域と博物館を結ぶコーディネーターの役割を担ってきました。15年目にあたり、これまで大阪自然史フェスティバルに関わってきた5団体のみなさんへのインタビューを通じ、私たちの活動をふりかえります。(西澤真樹子・上田裕子)



認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館内
電話 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306 www.omnh.net/npo

11/18~19 20,200人 9社 110団体	11/19~20 19,000人 10社 103団体	11/14~15 15,000人 18社 72団体	11/15~16 23,000人 16社 107団体	11/16~17 16,700人 13社 63団体	11/10~11 17,300人 13社 97団体	11/19~20 12,000人 11社 57団体	11/20~21 18,300人 12社 47団体	11/14~15 13,000人 13社 88団体	11/15~16 10,000人 13社 74団体	4/14~15 16,000人 13社 57団体	3/11~12 21,000人 83団体	3/20~21 11,000人 81団体	3/21~23 20,000人 85団体
-----------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

大阪自然史フェスティバル 2017

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

講演会「生きたもの地図を作ろう」
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
松岡達英さん（自然絵本作家）

講演会「鳥が作った自然史」
鳥・虫・花の共進化」
長谷川雅美さん（立教大学教授）

講演会「カエルのきもちを忘れなさい」
「愛知ターゲットをカンガエル」
道家新平さん（NCC）
宮川五十雄さん（生物多様性センター）

講演会「鳥の生活費は鳥自身で稼いでもらいますよ」
「うまいもん」から考える生物多様性」
湯本貴和さん（人間文化研究機構 総合地球環境学研究所）

特別講演会「確かな未来は懐かしい風景の中にある」
柳生博さん（白鳥野鳥の会）

講演会「日本鳥学会員近畿地区懇談会例会」
鳥の渡りや生物多様性の保全
樋口広芳さん（東京大学名誉教授 慶應義塾大学特任教授）

講演会「森に生きる不思議なサギ」
「ミソゴイの魅力」分かってきた生態と習性」
川名国男さん（ミソゴイ研究会）

講演会「街中で繁殖するハヤブサと」
チョウゲンボウについて考える」

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

大阪自然史フェスティバル 2016

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

大阪自然史フェスティバル 2015

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

大阪自然史フェスティバル 2014

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

大阪自然史フェスティバル 2013

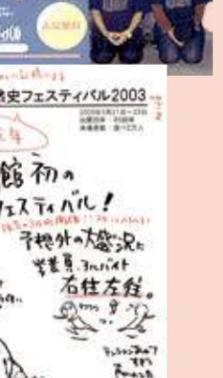
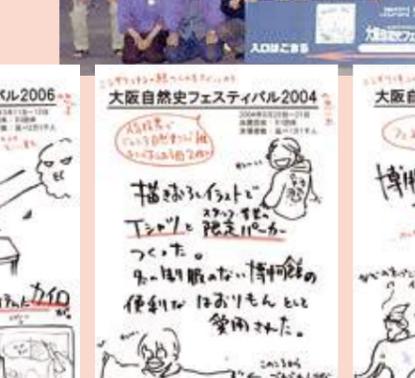
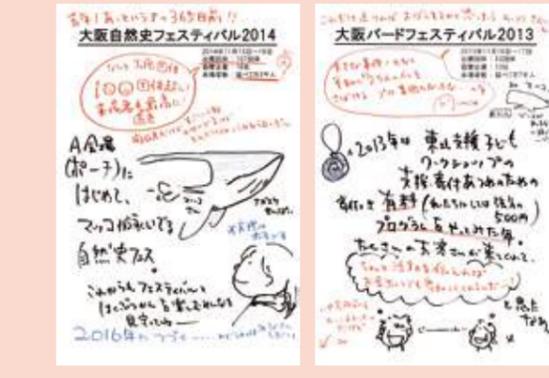
講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

大阪自然史フェスティバル 2012

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）

大阪自然史フェスティバル 2011

講演会「子」を他人に預ける鳥
「調べる力・生かす道」
濱口哲一さん（立教大学教授）
上田恵介さん（立教大学准教授）



博物館育ちの学生が大人となり出展団体へ

やまだ こうたろう
山田 虹太郎さん

鹿 100 頭に聞きました

interview
インタビュー

まつもと さとし
松本 清さん

池田・人と自然の会

2007年より協賛 野鳥写真家の叶内拓哉さんを講師に迎えるイベントを主催

かくい 渉さん | 興和光学株式会社 国内営業部

2008年より体験型講座「谷口高司のタマゴ式鳥絵塾」を主催

たにぐち たかし・りつこ
谷口 高司・りつこさん

谷口 高司 鳥絵工房

- 2回ほど大学の頃に出席したことがありますが、今のメンバーでの参加は初。今回は昆虫やキノコ、植物など幅広い内容で、初心者の人でも楽しめる内容になっています。奈良の自然の魅力を発信していきたいと思ひ、出展を申し込みました。
- 普段見る機会の少ない団体の活動を見て、気になったら話しかけられることです。この数の団体が一度で見られることはなかなかありません。「いつ活動していますか?」「見学はできますか?」など気になったらドンドン声をかけています。
- これまで自然に興味はあったけど団体を知らなかった人、興味は無いけどたまに見てきた人を博物館フリークにしてほしいです。今まで以上にお祭り感があると、遊びに来やすいでしょうか。あ!屋台とか音楽隊とかいとサーカスみたいで楽しそう!
- ジュニアの真にも参加していました。ひっこみがちで人見知りの自分が、ジュニアの説明をしているときはベラベラと喋っていることに気づき驚きました。その時ジュニアにいたメンバーが今では研究者になっていることも驚きです。

2003年のフェスティバル初開催から、毎年出展。皆勤賞。

まつもと さとし
松本 清さん

池田・人と自然の会

コメント内にあったNS裏表紙。

- 出展のきっかけを教えてください。(何年初出展)
- 大阪自然史フェスの魅力はどこなところですか?
- これから大阪自然史フェスに期待することを教えてください。
- 大阪自然史フェスでの印象的な思い出があれば教えてください。

- 2年に一度開催されていた大阪バードフェスティバルの第1回目(2007年)から毎年出展させていただいています。以前より関東のジャパンバードフェスティバルに対し、ぜひ関西圏でも本格的なバードフェスティバルをと考えていました。
- 毎年2万人を超える多くの方が来場され、特に家族連れが多いことが最大の魅力です。
- 来場者が毎年増えていくことを期待しています。特にバードにはまだ興味のないお子様が気軽に遊びに来てくれるイベントに育つことを期待しています。
- 小さなお子様がコーワの双眼鏡を手に取って「大きく見える!」と喜んでくれている姿が忘れられません。

大阪自然史フェスティバル 開催のきっかけ

地域やサークルとの連携を強化し、博物館のコミュニティを活性化

大阪自然史フェスティバルを開催しようと思ひ立った最初のきっかけは、とても単純なものでした。

「大阪市立自然史博物館には、約1,800世帯(2002年当時)規模の友の会があるほかに、数多くのサークルが博物館と密接に関係しながら活発に活動しています。しかし、友の会会員の多くは、博物館周辺でどんなサークルが活動しているかを驚くほど知りません。せめて、友の会会員に博物館周辺にどんなサークルがあるのか伝えたいと思ひつつ、有効な手段を思ひつかずにはいません。

2002年のこと、なにかイベントをしようと思ひが持ち上がりました。そこで思ひついたのが大阪自然史フェスティバルです。

大学生と企業のコラボ

まつまえ さとし
松前 諭さん

近大ホネホネ団と株式会社アクアタイム

- 2003年初出展。運営スタッフの中に、はっきりとしたきっかけを覚えているものがありません。「面白そうだから参加してみよう」くらいだったように思ひます。とりえず参加を決めてから「どうしようどうしよう」とぼたぼた話し合うパターンは初回から今まで変わりません。
- いろんな団体、いろんな方と出会えて情報交換や交流ができること。しばらく会っていない人に久しぶりに会えたりして、ちょっとした同窓会のようなところがあるのも魅力です。会の活動について振り返ってみる機会にもなっています。
- 自然にかかわっているグループにとってはいい刺激になっているのではないのでしょうか。運営は大変でしょうが今後も長く続けていただきたいです。
- 「Nature Study」2003年5月号の裏表紙に会場風景の写真が出て、当会が載っていてちょっとうれしかったです。

2008年より体験型講座「谷口高司のタマゴ式鳥絵塾」を主催

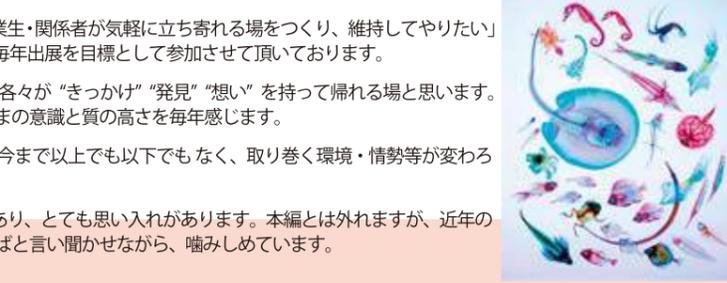
たにぐち たかし・りつこ
谷口 高司・りつこさん

谷口 高司 鳥絵工房

博物館周辺で活動しているサークルを一同に集めて、友の会会員に来てもらえばいいんだ!そこから手探りの大阪自然史フェスティバルが始まりました。

友の会会員が、関連するサークルの活動のことをよく知らないという状況は、大阪周辺の他の比較的大きな自然史関連団体でも似たようなものということがわかってきました。そこで、友の会や博物館周辺という枠組みをはずして、大阪周辺のさまざまなサークルを呼んで、一緒にサークルが交流する場にしてしまおうと、企画はふくらんでいきました。

- 2011年初出展。母校の団体活動協力のみならず、「学部にとらわれず、学生・卒業生・関係者が気軽に立ち寄れる場をつくり、維持してやりたい」という恩師の想いに賛同。当フェスを紹介頂き、学生・卒業生スタッフを主体に毎年出展を目標として参加させて頂いております。
- 器のおおきさ!コルさとカタさがバランスよく混在し、来館者・出展者・主催者の各々が「きっかけ」「発見」「想い」を持って帰れる場と思ひます。と同時に、フェスの魅力と器の大きさを維持し続けている出展者と主催者みなさまの意識と質の高さを毎年感じます。
- なにがなんでも毎年開催!!毎回、多くの繋がりや学びに出会える貴重な場です。今まで以上でも以下でもなく、取り巻く環境・情勢等が変わろうとも「館ある限り永久開催自然史フェス」を謳えるよう、お願い致します。
- 2011年の姉妹フェス(ホネホネサミット)が当社のイベント初出展ということもあり、とても思い出があります。本編とは外れますが、近年の懇親会の飯の美味さと参加者の多さは価値あり!早く寄付できるまでに成長せねばと言ひ聞かせながら、噛みしめています。



- 2008年が初出展。2007年の大阪バードフェスティバルがとても充実していたと興和のEさんに教わり、勇気を持って電話をしたところ、学芸員の和田さんが出て下さって、電話を切るときには「アゴアシ自腹で大阪出陣」という驚愕な展開になっていました。
- 運営スタッフの方の笑顔と、機転に尽きます。北から南、アジアまで数多あるイベントで、これほど、気持ちよく仕切る団体は初めてです。スタッフの熱意が出展者に伝わり、毎年ワクワクするイベントに進化中なこと、博物館のルールが遵守されているのも魅力です。
- 20年30年と歴史を重ねていく中で、今のスピリッツを受け継ぎ、新しい世代も育てて行って頂きたい。友の会で活動している子どもたちの成長が、そのままイベントの成長に繋がることがベスト。大阪に自然史フェスあり、といわれるようBIGになってください。
- 私が紹介した出展者がいきなりたき火を始めたり、勢いよく後頭部から軋んだ爆音で、広場が静まり返ったり、テレビに出演することになったり、鳥の仲間の記念撮影で忙しかったり。谷口が緊急入院で伺えなかったり。毎年起こるいろいろなことが楽しみです。

例えばこんな写真

大阪市立自然史博物館 大阪自然史センター編(2009)、「自然史博物館」を変えていく 高陵社書店 より抜粋